

奥利根源流馬蹄型スキー縦走

1981
5/5
4

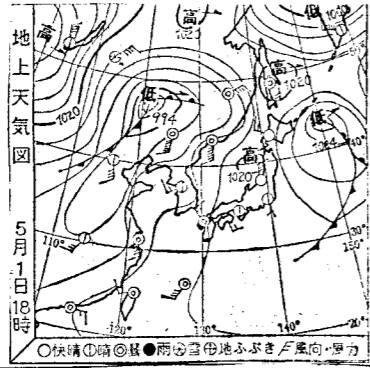
濃霧強風の中を巻根山へ登り、快晴の縦走路を滑る。矢口政武 記

5/1. ◎→◎→◎ 昨夜上野をたち六日町で新潟の佐野氏とあちあち直ぐクシで清水部落まで入る。

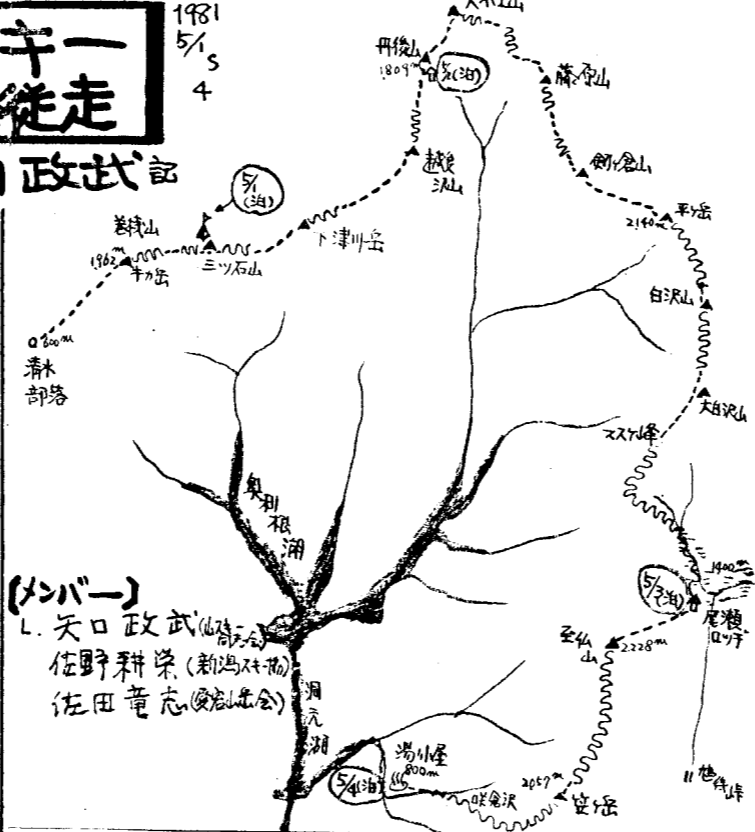
歩き出す頃には夜が明け、雪は部落から降りてきたが横坂にある桜は今と盛りと咲きほころび、標高1500m位いから上はガスが掛り巻根山の姿を見ることができない。

井戸の壁を過ぎ、広い谷地を登るにつれてガスが濃くなり横なぐりの風が強く吹く。何とか二巻根を越え避難小屋のある所に着く。二階建の小屋は屋根の一部が出ているだけであった。スキー、登山者が多く、その中テントが張られている。天候の見通しを付けたためラジオ天気図をとる。何とかなりそうだが一向にガスが下れる様子もない。ゆくり休むをとり晴れを期待して出発する。トレスをたよりに牛が谷と本ほきき方向へ進む。迷い乍ら牛が谷に辿りつく。ここが奥利根源流馬蹄型スキー縦走の出发点。初めてスキーをつける。ここは縦走路の屋根道がガスのため確認できず手前まで降り始めるとガスが下りくる。小ピークをいくつか越え、奥利根の山々を眺めて入山降は本ことに快適である。この縦走の最低鞍部1450mへクハスと駆けながら滑り込む。三ツ石山の手前鞍部にツェルトを張る。

清水部落 4:45 → (4回/50分) → 避難小屋 8:50 → 牛が谷 11:40 → 12:00 → (2回/45分) → 最低鞍部 14:40 → 15:20 → 三ツ石手前鞍部 15:45 (幕営)



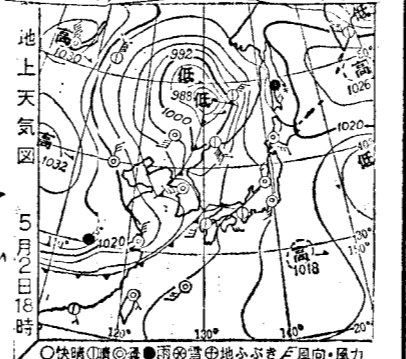
下津川岳、越後沢山の北尾根を滑る。丹後山避難小屋へ
5/2. ◎→◎ 3時半起床、5時半出発。快晴であるが風が強い。今日は後発で十字峡から登ってくる佐野氏と丹後山で迎える。



(メンバー)
L. 矢口政武(山崎会)
佐野耕栄(新潟スキー会)
佐田竜志(山崎会)

大水上山を越えて藤原山近くまで行けばいいがと思いつく。三ツ石山を登り、頂上からバス気味に滑る。小沢まではおぼろげに登り、屋根道では強風にスキーがぶつかると一層慎重さを要する。小沢岳、下津川岳とピークを踏む北尾根を滑る。十字峡から登って、合の菅沼パターとトレンシバの交信も行われ、今回の馬蹄型スキー縦走は完遂できる見通しがついた。矢口、南方上空よりハリコブが飛んできてスピークが飛ばしている。『これは新潟県警です。今日からお天に於て氷下北風の寒気が近付いてきてお天の登山装備は充分でしょうか?』と云う。何はともあれ丹後山避難小屋に入ることにして先を急ぐ。小屋は丹後山三角より南へ約100mの草原にあり、鉄骨二階建の立派なもので(80年初完成)。向もなく菅沼パターに到着し同行してきた佐野氏と合流する事ができた。

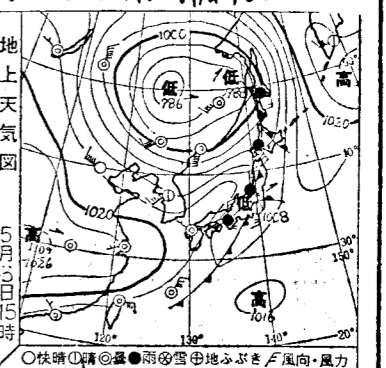
出発 5:25 → (1回/60分) → 小沢岳 8:10 → 下津川岳 9:10 → (2回/45分) → 越後沢山 13:20 → (2回/30分) → 丹後山避難小屋 15:00 (幕営)。



大水上山より平ヶ岳を越えて尾瀬ヶ原へ

5/3 ◎→◎→◎→● 3時起床、晴れるのを期待して5時出発。大水上山頂上で晴間を待つのが(結局)ため、ピーク直下でスキーを付けガスの中を滑り降り、バスが所々にある雪庇が崩れているのでスキーを背負う。降りきった所にテント一つ女性二人が寝て出た挨拶を交す。道は稜線を行くため崩れが加わると数に苦痛する。ピークをいくつか過ぎ、遙かに見えている平ヶ岳の広大な丸い峰も次第に近くなり、なだらかに登り、末ついに頂上に立った。大水上山下で合流した女性二人も同じく到着。途中佐野氏が落した腕時計を拾ってきてくれる。一時間程休む。いよいよ滑降。白沢山、スズノ峰の所以外は快適に滑る。小雨混りのガスも大分となく二俣沢を滑り、二俣出合からは平地滑走。尾瀬ロッヂに17時40分到着する。

(コースタイム)
出発 5:00 → 大水上山 5:35 → 5:50 → (2回/20分) → 藤原山 8:00 → 8:20 → (1回/10分) → 湯倉山 10:00 → 10:25 → (2回/20分) → 平ヶ岳 12:50 → 13:50 → (2回/20分) → スズノ峰 16:15 → 16:30 → 二俣出合 16:55 → (1回/10分) → 尾瀬ロッヂ 17:40 (幕営)

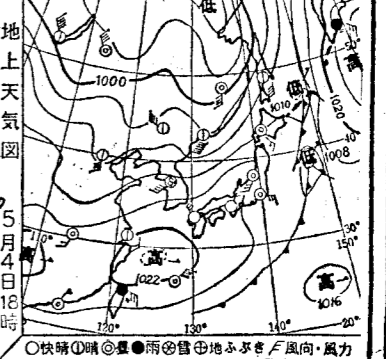


至仏山、笠ヶ岳を越えて

葉留日野山荘へ快晴なツアー 5/4 ◎→◎

濃いガスが掛っているがとにかく降っていないので出発する。7時多勢の見送りを受けて11人(88人)で出発。森林限界の上は晴れている。頂上には尾瀬ヶ原のガスがすかり上った。頂上は簡単な腹ごなし10時滑り始める。全員快適な滑り出し。アツク言う間に小笠山と鞍部へ。小笠山にはバス気味に登り返し、オマケ代、悪沢岳と足が疲れた程滑る。小屋に登りに掛ると3人でスキーを背負い、頂上12時到着。楽しい豪華な昼食をとり、一時間ほどスキーを付け東側急斜面の横壱に降り、尾瀬ヶ原へ入る。越後沢山に滑り込む。横の2人でスキーを脱ぎ、山道を一時間程歩き、林道に出て、葉留日野山荘に18時到着。

(コースタイム)
出発 7:00 → (2回/20分) → 至仏山 9:35 → 10:10 → (2回/20分) → 笠ヶ岳 12:00 → 13:00 → (4回/60分) → 横壱 16:00 → 16:20 → (2回/20分) → 11ヶ山荘 18:10



810603

6

No.00065

まとめ

数年来の計画を完遂し宿題が一つ片付いた。成功した条件は、天候に恵まれ、チャレンジできるメンバーが揃ったことである。

今年やる気になったのは、東京スキー協会の尾瀬春スキー10周年にあつたこと。自分の体力的(年齢的)限界が近いと、先に揚げるメンバーが揃ったことである。装備、食糧の軽量化に努め目的はほぼ達成した。今回、可能な限りスキーを利用したが、巻杖山から平沢山の間に於てスキー、徒走優位の証明にはならなかった。

何はともあれ、天候、メンバー、コースの三拍子が揃い、素晴らしい思い出に残る、近來にない良いツアースキーであった。

1981. 5/2

5/4

尾瀬

安達邦彦 記

5/2 (土) [晴]

早朝沼田着、4:30迄仮眠すれば真夜中
の駅舎に響きわたる様なイビキ男と同居で
安眠できない。山行の未来を暗示するよう
な朝であった。タクシーで鳩待峠に向うが
戸倉から少しばかり進んだ所で雪崩のため
林道は不通であった。幅にして5m程度
あるが仕方なく下車(¥10K)。朝食の後
すっかり除雪された林道を歩く男3人。
ようやくにして津奈木沢出合に至る。こ
こからは林道を隔れて雪の上を行き、時
々林道と交差して鳩待峠に到着。峠付近は
まだ除雪中だった。予定外のアルバイトに
ずいぶんエネルギーと登ることにする。こ
の登り、悪沢岳をトラバースして稜線に
出るまではけっこう急で(下りは楽そう)平
ヶ岳に行く元気が急遽に失われてくる。尾
瀬ヶ原にも望まれ快調。しかし今度は雲行
きの方が怪しくなってくる。至仏山に着
いた時には風も強くなり、予報も悪天を告
げていた。最初にして最後の快適な滑り。箱
又川との出合に幕営。

5/3 (日) [晴・夜雨]

天気予報は大きくはずれよい天気。至仏
に登り直す元気もないうので尾瀬ヶ原見物
に出ることにする。尾瀬ヶ原は殆んど平らで
スキーは滑らず、さながら雪上歩行練習場
といったところ。人(山ヤ、スキーヤ、そ
の他正体不明の人多数)も沢山歩いてい
て、どちらかと言うと都会の歩行者天国
のような雰囲気である。我がパーティも歩
いているのか休んでいるのかわからな
いようペースで、途中でビール

ほびを飲みながら原を横断。十字路では
我がパーティを取杖に来た(に違いない)テ
レビ局のヘリコプターに旗を振って応
える。十字路からは夏道でいに白砂温
原まで、けっこう急登り。乗越か
らは殆んど平らで沼尻に至り、樹
林帯に幕営。下りなき一日だった。

5/4 (月) [晴]

夜半の雨もあがり、よい天気。沼を渡り
長蔵小屋に向う。沼を横断出来るのも
連休が最後というところが、そここ
ろにクラックが現れている。沼にそ
って三平峠まで登り、いよいよ大
清水まで最後の大滑降。一ノ瀬ま
での沢ぞいの道は雪もかなり残
っていて申し分ないが歩行者が多
く急な山道なので注意が必要。こ
ろどろと注目の的となる旗を持
っての転倒は会の名譽にかかわ
るので厳に謹まなくてはならな
い。(?) 林道に出ても大清水
近くまで雪が残り、まずまずの
滑走。昼すぎにはバスの人と
なった。(¥1.5K+100)

タイム:

- 戸倉 6:00 → 津奈木沢 8:40 → 鳩待峠 9:20
- / 10:10 → 悪沢岳稜線 12:05 → 至仏山 14:10
- / 14:40 → 山ノ鼻 16:00 / 8:20 → 山ノ鼻
- 小屋 8:45 → ヨツピ橋 9:25 → 竜宮 11:00
- / 11:35 → 十字路 12:00 / 13:00 → 白砂乗越
- 15:00 → 沼尻 15:30 / 17:40 → 長蔵小屋 8:
- 10 / 8:50 → 三平峠 9:45 / 10:20 → 一ノ瀬
- 10:55 → 大清水 11:40

メンバー: 斎藤・川口・あ達

810603

7

No.00065